

英語学習用ポッドキャスト “Hiroshima University’s English Podcast”

—— オリジナル番組の制作と配信システムの構築 ——

榎 田 一 路

広島大学外国語教育研究センター

1 はじめに

広島大学外国語教育研究センターでは、2008年8月より、筆者と Joe Lauer 准教授による英語学習用ポッドキャスト “Hiroshima University’s English Podcast”¹⁾ の配信を開始した。これは2007年に広島県内の大学生を対象に行ったポッドキャストの視聴環境や認知度に関するアンケート結果を基に企画したもので、本学学生および一般の聴取者を対象に、複数のジャンルとレベルの番組を制作している。台本執筆とスタジオ録音を Lauer 准教授が中心的に行い、筆者は主に番組の編集と配信を担当している。

このポッドキャストの内容の詳細や、実際に授業で使用した際のアンケート結果などについては Lauer (2009) で説明されているので、小論では教材の編集および配信の技術に焦点を当て、スタジオ録音した音声素材をポッドキャスト配信用ファイルとして公開するまでに必要な手順と、今後の課題について報告する。

2 ポッドキャストと英語学習

まず、ポッドキャストについて簡単に説明し、これを英語学習に応用することの意義および大学英語教育における活用の実態について触れておく。

ポッドキャスト²⁾とは、インターネットを介してパソコンや iPod などのデジタルオーディオプレーヤ (DAP) に音声や動画を配信する手法である。その多くは MP3 や MPEG-4 など汎用性の高い形式を採用しており、そうした音声や動画のファイルを RSS フィード³⁾ と組み合わせることで、プッシュ型の情報配信を実現するものである。iTunes などのアグリゲータ (aggregator) と呼ばれるソフトを利用すれば、サーバ上の番組ファイルがパソコンに自動的にダウンロードされるので、パソコンや DAP 上で番組を聞くことができる。“iPod” と “broadcasting” を組み合わせた造語である「ポッドキャスト」は、ユーザの自発的なアクセスに依存していたネット上のコンテンツにプッシュ型配信の技術を施すことで、放送メディアのような受信の手軽さが擬似的に実現した様子をよく言い表している。

現在さまざまな種類の番組がポッドキャストにより配信されている背景としては、パソコンの性能向上とネットワークの高速化に伴い、音声・動画のメディアの主役が、カセットテープやミニディスク (MD) といったパッケージメディアからデジタルファイルに交代しつつあること、そして iPod を中心とした DAP が急速に普及していることが挙げられる。榎田 (2008) で広島県内の大学生298名を対象に行ったアンケート調査では、全体の30%が iPod を所有しており、51%がパソコンと同期して利用する DAP を持っていた。カセットテープや MD の再生環境を持たない学生も増えており⁴⁾、音声メディアとして現在最も広く普及している CD にしても、パソコンに取り込んだファイルを iTunes や DAP で一元管理して聞く方が、メディアの入れ替

えも必要なく簡便である。

このように学生の音声再生環境が急激に変化している中、ポッドキャストを大学英語教育に活用することはさまざまな利点がある。まず、メディアを大量にコピーすることなく多数の利用者に簡単に教材を配信できる⁵⁾。次に、学習者一人ひとりのレベルと興味に合った英語学習用番組や海外の英語コンテンツを無数に、しかも無料で購読できる。また著作権によりコピー・配布が制限されているパッケージメディア型のコンテンツと異なり、利用者が各自でダウンロードする形式だから、教材としての利用は法的にも問題ない。さらにはポッドキャストの特徴であるプッシュ型の配信形態は、継続的学習の促進に応用し得ると考えられる⁶⁾。こうした利点を生かすことで、コンテンツの配信や利用にあたりコストや手間をさほどかけることなく、継続的な自学自習を促し、英語学習の絶対量を増やすことが可能となるだろう。教室における授業時間数が限られている大学英語教育において、ポッドキャストは大きな可能性を秘めていると言えそうだ。

それでは国内の大学英語教育の場で、ポッドキャストは実際にどの程度活用されているのだろうか。「iTunes Store」⁷⁾内に登録されている英語学習用番組を調べると、大阪府立大学による多言語の語学学習番組⁸⁾や、東京大学と株式会社ベネッセコーポレーションの共同開発による「英語 de キャリアアップ」が目を引くものの、多くは大学ではなく民間で制作されたものである。実験的に非公開のサービスを行っている大学の事例は各種研究会で散見されるものの、民間のものを含め数多くの英語学習用番組が配信されていることを考えると、大学における教材開発の事例は決して多いとは言えないのが現状だろう。また、既存のポッドキャストを教室において活用する提案はなされているものの、学会等における実践報告の数も少ない⁹⁾。

また、DAPの普及が進む大学生の間で、ポッドキャストは利用されているのだろうか。先述の榎田(2008)の調査では、英語学習に限らずポッドキャストの番組を利用している学生は、298名中31名に過ぎなかった。「利用していない」と答えた267名にその理由を尋ねると、圧倒的に多かったのは「『ポッドキャスト』が何なのかわからない」(181名)であった。その潜在的可能性の高さにもかかわらず、ポッドキャストが英語教育のみならず、学生の自発的な学習にもさほど貢献していない現状がわかるだろう。

3 Hiroshima University's English Podcast について

3.1 目的

以上の現状を踏まえ、筆者はポッドキャストを英語教育に活用する試みとして、次のような課題を設定した。

- (1) 大学生のレベルとニーズに合ったコンテンツの開発
- (2) 多様な聴取形態に対応した配信システムの構築
- (3) ポッドキャストを利用した学習を促すための教員からの働きかけ
- (4) (1) から (3) までの実践を通じて、プッシュ型配信の利点である継続的学習がどの程度推進されるかの検討

以下に行う報告は、上記課題のうち特に (1) と (2) に焦点を当て、オリジナルのポッドキャスト番組を制作、配信する枠組みを構築する過程に関するものである。なお、本実践が汎用性を持ち得るよう、配信システムの構築およびコンテンツの開発においては、なるべく低コストで効率的な教材作成方法を優先させることとした。

3.2 Hiroshima University's English Podcastで扱う内容

前述の榎田(2008)におけるアンケート結果の中で要望の高かったもののうち「ドラマ」「会話」「フリートーク」を取り上げ、それぞれ「ドラマで英語を学ぼう」「やさしい英語会話」「異文化ディスカッション」というタイトルでシリーズ化した。それぞれの番組の概要とレベルは以下のとおりである。

- ・ドラマで英語を学ぼう(中級～上級)

無料で脚本を公開しているサイト“Freedrama.com”より、長さ、レベル、英語学習者から見た内容の面白さとわかりやすさを考慮し、米国の脚本家D. M. Bocaz-Larson氏著の“The Weirdest Honeymoon Ever”を利用することとした。使用にあたっては、Bocaz-Larson氏に趣旨を説明し、利用の快諾を得た。ドラマを5回分に分割し、英語による解説を添えた。

- ・やさしい英語会話(初級～中級)

2種類の速度(スローおよびナチュラル)で録音された書き下ろしの会話を中心に、英語と日本語による解説を添えた。

- ・異文化ディスカッション(中級～上級)

広島大学に学ぶ留学生をゲストに招き、東広島での学生生活や身近な話題について英語で話してもらおう。オープニングとエンディングで日本語による導入とまとめを行い、主要部分は英語のみで進行する。

配信は、15～20分程度の番組を毎週1回のペースで行うこととした¹⁰⁾。また聴取者の興味を喚起するため、番組進行をラジオ風にして教材色を薄めるように努めた。例えば「ドラマで英語を学ぼう」「やさしい英語会話」ではネイティブ(Lauer准教授)と日本人学生のやり取りで進行する形式を採用し、BGMや効果音の配置にも工夫を施した。

3.3 公開および配信方法

ポッドキャストの公開にあたってはRSSフィードに加え、独自のウェブページを用意して、ブラウザ上にプレーヤを設けて聴取できることとした。学生一人ひとりの生活様式に応じて、DAP、パソコンのブラウザや再生ソフトなど、多様な聴取形態を想定することが望ましいから



図1 「iTunes Store」での公開



図2 「Yahoo! ポッドキャスト」での公開

である。また、RSS フィードは「iTunes Store」と「Yahoo!ポッドキャスト」上に登録し、それぞれのポータルから検索できるようにした(図1, 2)。

3.4 構成

本ポッドキャストは、以下のようなシステムで構成することとした。

- ・音声ファイル

音声ファイル形式は、もっとも汎用性の高いMP3を採用する。

- ・ウェブページ

ウェブページに内容の簡単な解説とスクリプトを掲載する。ただし、ドラマについてはスクリプトの分量が多いため、別途PDFファイルを準備し、ウェブ上に掲載する¹¹⁾。また、ウェブ上で音声を聞いたり、MP3ファイルをダウンロードできるようにする。

- ・RSS フィード

RSS フィードは常に最新の更新情報を提供する必要があるが、番組の更新毎に手動で書き換える必要のないよう、更新内容がRSS フィードに自動的に反映されるシステムを用意する。このようなシステムには、MacOS X上で動作するウェブページ編集ソフト「iWeb」や、ウェブサーバにアクセスしてオンラインで編集を行う各種CMS¹²⁾などがあるが、詳細は後述する。

3.5 配信までの流れ

以下、番組の企画から配信までの流れを、その過程で生じた試行錯誤も含めて説明する。

(1) 企画

筆者とLauer 准教授が番組の企画や構成を行った。

(2) 台本執筆

「やさしい英語会話」の会話の台本は、教員と留学生を中心とした学生数名により執筆した。

(3) スタジオ録音

収録に当たり、教員のほかに、留学生と日本人学生にも協力を依頼した。昨今における英語の多様性を考慮し、ネイティブスピーカーだけではなく英語を母国語としない留学生にも出演してもらった。

録音には大学の教材録音編集室内にあるスタジオを利用したが、収録にあたってはメディアの選択に工夫を要した。音質劣化の防止と編集の容易さを考えると、パソコンを中心としたデジタル録音環境が整備されていれば理想的だが、今回利用した録音室はアナログ環境のもので、録音はカセットテープやMDなどのメディアに行うようになっている。そこで当初はカセットテープやMDで録音したものを改めてパソコンに取り込みデジタル化していたが、この作業が完了するまでには実時間の倍を要していた。これを解決するため、小型デジタルレコーダ(エディロールのR-09)をスタジオに持ち込み、調整卓のヘッドホン出力から音声をR-09に取り込んでデジタル録音を行った(図3)。デジタルレコーダを利用すればスタジオの音声がWAVファイル上に直接

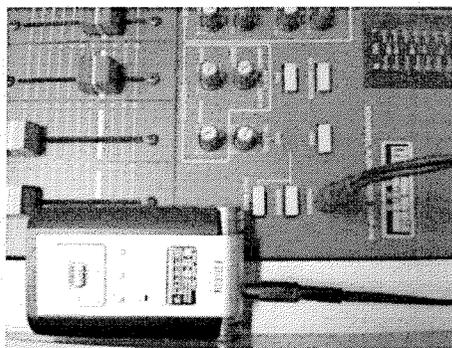


図3 R-09(左下)をスタジオ調整卓に接続した様子

録音されるので、これをパソコンに転送するだけで即座に編集が可能となる。

(4) 音声編集

アップルの音楽作成用ソフト「GarageBand」にはポッドキャストの編集機能があり、音声の録音・編集・ファイルの書き出しといった一連の作業が同ソフトのみで完結する（図4）。このため、ポッドキャストの番組作成はGarageBandを中心に行うこととし、ミックス前の編集作業も当初は同ソフト上で行っていた。

ところがスタジオで録音された素材を番組として利用するには、かなり微細な編集作業が不可欠であるため、そうした作業に特化したソフトを用意して作業時間の短縮を図ることにした。ここでは高機能な音声波形編集ソフト「Audacity」を使用した。Audacityはフリーウェアで、Mac、Windows、Linuxの各種プラットフォームに対応している。Audacityでは不要部分の削除や順番の入れ替えなどの作業が、ワープロのコピー&ペーストの感覚で軽快に行える（図5）。

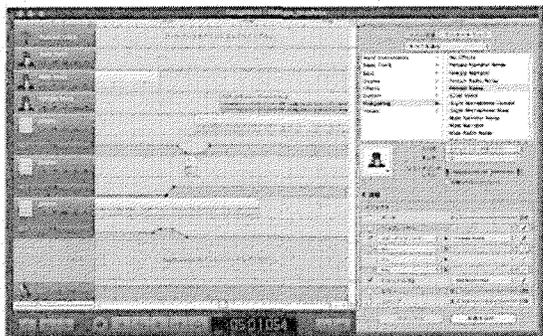


図4 GarageBandを用いた編集画面

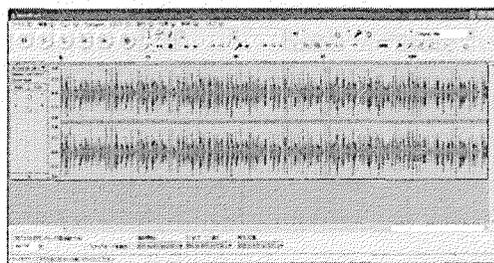


図5 Audacityを用いた編集画面

(5) BGMや効果音の準備

BGMや効果音の準備にはGarageBandを利用した。このソフトに付属の「Apple Loop」には、音楽ループ、効果音、ポッドキャスト用のジングルなどが豊富に収録されており、GarageBand上で組み合わせた作品は、ポッドキャストの番組に自由に利用できる。必要に応じて、組み合わせたものを一度音声ファイル（AIFF形式）に書き出すが、そのままでは若干音量が小さい場合があるので、そのような場合はAIFFファイルをAudacityに読み込ませ、正規化（ノーマライズ）処理を行う。

(6) ミキシング

ミキシングはAudacityなどマルチトラック対応のソフトであれば可能だが、ここでは編集の容易さからGarageBandを利用した。GarageBandでは、音声、BGM、効果音を画面にドラッグ&ドロップしてタイムライン上に配置し、各トラックごとの音量調整やフェードイン・フェードアウトを行う。今回、同ソフトによる編集作業で頻繁に用いている機能には、素材の音量の増幅や音質調整により聞きやすくしたり、エコーやリバーブなどの効果を加えられる「エフェクト」や、トークの音声とBGMとオーバーラップしたら自動的にBGMの音量を下げ、トークを聞きやすくする「ダッキング」などがある。

(7) MP3ファイルの書き出しおよびタグの編集（スクリプトやアートワークの編集）

ミキシングした番組はGarageBandから直接MP3ファイル形式で書き出せる。MP3ファイル

の音質を左右するビットレート（圧縮率）は、ダウンロードの際の利便性に配慮して1番組のサイズが10MB程度となるよう、80kbpsのステレオに設定している。

またMP3ファイルには文字や画像（アートワーク）のような情報をタグとして埋め込むことが可能で、iTunesやiPod上ではタグの情報に基づいてファイルの整理・閲覧が行える。特にiPodでは、音声を聞きながら画面上に文字情報を表示させることが可能であり、英語学習において利便性が高い（図6）。これを利用するため「やさしい英語会話」では会話のスクリプトをタグに埋め込むこととした。タグの編集にはiTunesを利用した（図7）。

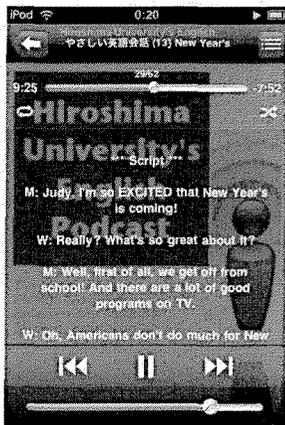


図6 iPod Touch上でスクリプトを表示

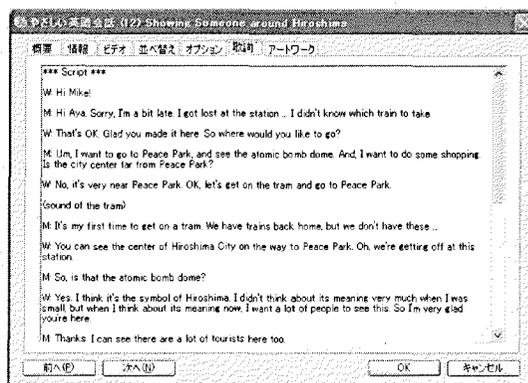


図7 iTunes上のタグ編集画面

- (8) MP3ファイルをウェブサーバに転送
- (9) ウェブ上に表示する解説やスクリプトの編集

これらの手順については、先にも触れたように、iWebを利用する方法と、CMSを利用する方法がある。iWebはMac用のソフトウェア「iLife」¹³⁾の一つで、HTMLの知識を要することなく、ワープロのような感覚でウェブ上の文書を編集できる。また、アップルが有償で提供しているネットワークサービス「MobileMe」を利用すれば、FTPクライアントなどの特別なソフトを用いることなく、iWeb上で編集した文書をネットワークに公開できる。また、iWebはGarageBandとの連携によるポッドキャストの配信にも対応しており、RSSフィードの自動生成、ウェブ上での音声・動画再生、GarageBandで書き出したコンテンツの共有といった機能を有している（図8、9）。

本ポッドキャストの試験配信においては、上記のような簡便性からiWebおよびMobileMe¹⁴⁾を用いていたが、汎用性の点で若干問題が生じた。まず、更新するにはiWebのインストールされたMacが必要となる。また、OSやブラウザによっては意図した通りに文書が表示されないことがあった。さらにiWebで書き出したポッドキャストの再生にはアップルのマルチメディア再生用ソフト「QuickTime Player」を用いるため、利用者はQuickTimeのプラグインを別途インストールする必要がある。最後に、GarageBandからiWebに書き出せるファイルのフォーマットが限定されており、汎用性の高いMP3ファイルが利用できない¹⁵⁾。

こうした問題を解決するため、本配信においてはCMSの利用を検討することとした。この方法としては、ポッドキャストに対応した民間サービスの利用と、自前のサーバを用いた

CMS の設置の 2 つがある。前者の場合、利用登録のみで手軽に利用でき、その多くは広告による運営のため無料で使用できるが、ファイルの容量制限、表示される広告が教育目的の運用にそぐわない可能性、変化の激しいネットサービス業界における継続的で安定したサービス供給への不安といった懸念がある¹⁶⁾。また、自前のサーバを利用する場合、CMS の多くは PHP や MySQL といったプログラミング言語やデータベースを利用するため、そうした環境を備えたウェブサーバを用意する必要がある上、設定から利用するまでの手間や、セキュリティ管理の手間も発生するが、その一方で商用サービスと比べてカスタマイズの自由度が格段に高い。広島大学では情報メディア教育研究センターがホスティングサービスを提供しており、PHP や MySQL を利用可能で、サーバのハードウェアや OS レベルのセキュリティ管理を一任できる。そこで、本配信はホスティングサーバ上に自前の CMS を立ち上げて行うこととした。



図8 iWeb の編集画面



図9 iWeb で書き出したウェブページ

サーバにインストールして利用できる CMS には、「Movable Type」, 「WordPress」, 「Nucleus」などがある。Movable Type は普及度が最も高いツールだが、個人ユース以外は有償であり、団体・法人による利用にはライセンス料金が発生する。WordPress と Nucleus はオープンソースのソフトのため、ベンダーサポートが存在せず、システムのアップデート等は自分で情報を収集して行う必要がある反面、無料で利用できるという利点がある。いずれも数多くのプラグインが供給されており、必要なものをインストールすることでカスタマイズが可能である。本ポッドキャストにおいては、その初期状態のシンプルさから Nucleus を採用した。

以下、Nucleus でポッドキャスト配信にあたり必要となったプラグインと、それぞれの機能を挙げる (図10)。

・ NP_Podcast

RSS フィードにエンクロージャー要素¹⁷⁾を追加し、ポッドキャストに対応させると同時に、ブログエントリー上から MP3 ファイルをダウンロード可能にする。

・ NP_Dewplayer

ウェブ上で MP3 ファイルを再生するソフト「Dewplayer」を制御する。Dewplayer は Adobe Flash Player のプラグイン上で動作するクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのプレーヤーで、

シンプルなデザインを特徴とする。

- NP_List
サイドバーのメニューリストにエントリー数を表示する。
- NP_ShowBlogs
利用者が過去のページをたどりやすくするため、ページスイッチを設置する。



- ① NP_Podcast
- ② NP_Dewplayer
- ③ NP_List
- ④ NP_ShowBlogs

図10 Nucleus を用いたウェブページとプラグイン

通常 CMS にはコメント機能があり、利用者が自由に意見を送信できるようになっているが、当面はこの機能を停止することとした。これはコメント機能を有効にするといわゆるコメントスパムによる大量書き込みが予想され、管理面での対応が十分にできないことによるが、コメント機能自体は個別の番組に対する生の意見を集めるのに有用と思われるので、スパムへの対処法が確立し次第利用する予定である。

また、アクセスデータの収集のため、2種類のアクセス解析システムを設置した。まず、CMSのアクセス解析ツールとして広く利用されているフリーウェア、「BBCclone」をインストールし、本ポッドキャストのページとRSSフィードを記録の対象とした(図11)。次に、Googleが無料で提供しているアクセス解析サービス「Google Analytics」に本ポッドキャストを登録した(図12)。前者は直近の100アクセスの履歴を具体的に記録するのに対し、後者は直帰率や平均滞在時間など、アクセスデータの様々な分析結果を参照できる¹⁸⁾。

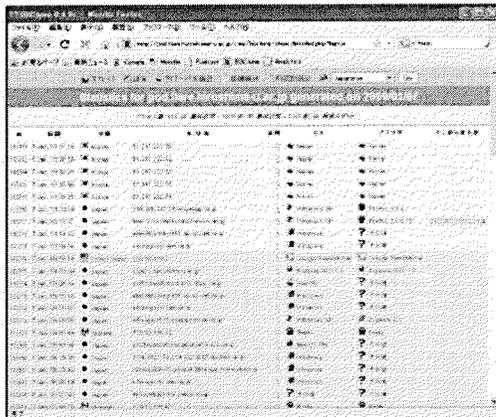


図11 BBClone



図12 Google Analytics

4 まとめと今後の課題

今回の実践を通じた気づきとして、ここではポッドキャスト配信システムを構築する際に留意すべき事項を報告する。

- ・現在ポッドキャストの制作・配信に使用している機材やソフトを以下にまとめる。
 - －大学の教材録音編集室
 - －デジタルレコーダ（エディロールの R-09）
 - －パソコン（MacBook CPU: Core2Duo 2.0GHz OS: MacOS X 10.5.6）
 - －編集用ソフト（Audacity, GarageBand, iTunes）
 - －CMS（Nucleus）およびホスティングサーバ
 - －ファイル転送用 FTP ソフト（Cyberduck）

使用ソフトは、MacBook 付属の GarageBand を除きすべて無料で入手できる。パソコンが一台あれば、低コストでポッドキャスト用の音声教材を作成することが可能である¹⁹⁾。

・ポッドキャスト用素材の収録時にはカセットテープや MD など既存のメディアではなく、デジタルレコーダを用いて直接 WAV ファイルを作成する方が高音質であり、パソコン上での編集も容易である。

・コンテンツ配信は、RSS フィードを自動的に生成し、DAP やパソコンなど複数のプラットフォームに対応できるよう、CMS を利用して行うことが望ましい。自前のサーバで CMS を立ち上げることが困難な場合は、ポッドキャストに対応した各種ブログサービスを利用することもできる²⁰⁾。

今回の実践では、大学生に行ったアンケートをもとに、学生のレベルとニーズに合ったコンテンツの開発および多様な聴取形態に対応した配信システムの構築を試みてきた。今後は、今回構築したシステムを用いてさらに多くの教材を開発・配信するとともに、アクセス解析、ウェブ上でのコメント収集、アンケート等のフィードバックを参考にしながら、配信システムや内容の充実を図っていく予定である。その上で、大学生に番組の聴取を働きかけ、その実態を分析することで、継続的な学習を促進し、学習の絶対量を増やすための効果的なポッドキャストの利用法を模索していきたい。

付記 本研究は、科学研究費補助金 基盤研究 (C) 19520491による研究成果の一部である。

注

- 1) “Hiroshima University's English Podcast”の URL は <<http://pod.flare.hiroshima-u.ac.jp/>>。
- 2) ただしこの名称は「ポッドキャストは iPod を持っていなければ利用できない」という誤解を招きやすい。実際には、iPod をはじめとする各種 DAP や、インターネットに接続されたパソコンがあれば利用可能である。
- 3) RSS フィードはウェブ上にある最新情報の見出しや要約を配信するためのメタデータを指す。ポッドキャストで用いられるのは RSS 2.0形式である。
- 4) 中西・植松 (2007) で839名の大学生を対象に行ったアンケート調査では、カセットテープ再生機器を持つ大学生は37%に過ぎず、MD再生機器については73%が所有しているものの、常用者は家庭で21%、外出先で15%、購入を考えている者は4%であり、今後はマイナーな再生環境となることが予想される。
- 5) 鳥居 (2006) は、iPod の教育利用を開始した株式会社東京リーガルマインド (LEC) の事例を紹介している。ここでは CD や MD など既存メディアの問題点として、録音時間の制限と大量コピーの難しさが指摘されている。
- 6) 池田 (2008) は、ポッドキャストが学習の「ベース・メーカー」として利用できる点を指摘している。ただ、先行の実践研究を見る限りでは、ポッドキャストがベース・メーカーとして継続的な学習をどの程度促進するのか、そうした点については十分に検証がなされていないと思われる。
- 7) iTunes Store はその名が示すとおり音楽、ムービー、アプリケーションのダウンロード販売に用いられているが、ポッドキャストの提供も行っており、こちらは無料で購読できる。
- 8) 大阪府立大学は2006年度にドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の会話教材「大阪府立大学初修外国語 Podcast」、2007年度には英語を加えた5ヶ国語の旅行会話教材「大阪府立大学外国語学習 Podcast」を配信した。これらは現在も iTunes など利用できる。なお、この事例は清原 (2008) で詳しく報告されている。
- 9) 一例として、最近の外国語教育メディア学会 (LET) 全国研究大会における実践報告・研究発表の事例を見ると、“iPod”や“Podcasting”をキーワードとするものは第46回 (2006年) は3件 (ワークショップ1件、ネイティブ英語教員による実践報告1件、日本人教員による実践報告1件)、第47回 (2007年) は0件だった。また WorldCALL 2008では、iPod やポッドキャストを利用した実践報告・研究発表が3件あったが、1件はシンガポールの大学におけるドイツ語教材開発、2件は日本の大学のネイティブ英語教員による活用事例であり、日本人教員による活用事例はなかった。
- 10) 本報告では番組へのフィードバックは取り上げていないが、Lauer (2009) によれば、今回のポッドキャストに対する学生からの不満のうち最も多かったのは「番組の長さ」であった。Williams (2007) では、教育用ポッドキャスト作成に着手する際は、学習者の注意持続時間 (attention span) に配慮し、まず15分以内の短いものから始めるべきとしている。
- 11) iTunes では音声・動画ファイルだけではなく、PDF形式の文書ファイルの配信も可能である。
- 12) Content Management System のこと。ブログ、ウィキ、eコマースなどに用いられ、その多くが GPL ライセンスを採用したオープンソースのソフトウェアである。教育用に特化した

ものとしては、「Moodle」のような LMS (Learning Management System) や、「Mahara」のような e ポートフォリオなどがある。

- 13) 今回使用したのは「iLife '08」。2009年1月に最新バージョンである「iLife '09」が発表された。
- 14) MobileMe は2008年7月以降の名称で、利用した当時は「.Mac」という名前だった。
- 15) 正確には、MP3ファイルを iWeb に貼り付けると、自動的に QuickTime 形式 (拡張子 .mov) に変換されてしまう。
- 16) ポッドキャスト関連のネットサービスのうち実際に終了した例としては、ポータルページを提供していた「キャストセラ」<<http://www.castella.jp/>> (2008年8月31日終了) や「ポッドキャストナビ」<<http://www.podcastnavi.com/>> (2008年7月31日終了) などがある。「キャストセラ」は、携帯電話やブラウザの操作により簡単にポッドキャストを作成できるサービスも提供していた。
- 17) エンクロージャー要素 (enclosure element) は RSS フィードで用いられるタグの一つで、MP3などのマルチメディアファイルの URL とともに記述することで、フィードを通じてファイルを配信できるようになる。Nucleus の RSS フィードは、デフォルトではエンクロージャー要素を含んでいない。
- 18) 直帰率 (bounce rate) とはサイトにアクセスしたユーザのうち、1 ページだけを見て離脱するユーザの率を指す。直帰率が低く、平均滞在時間が長いほど、ユーザに興味をもたれているサイトである。なお、Google Analytics は Google のアカウントがあれば利用可能で、ソフト等のインストールは不要である。
- 19) Audacity は Windows にも対応しており、音声編集以外に、録音、ミキシング、MP3ファイルへの書き出しなど、ポッドキャスト用教材作成に必要な機能をほぼ備えている。また、ライセンスフリーでポッドキャストの BGM に利用できる (“Podsafe” と呼ばれる) 音楽もネット上で多数公開されている。例: Pod Music Street<<http://music.mycupoftea.cc/>>
- 20) 上村他 (2008) では、「ココログ」<<http://www.cocolog-nifty.com/>> や「Seesaa」<<http://blog.seesaa.jp/>> といった無料ブログサービスを利用したポッドキャストの配信方法が説明されている。

参考文献

- Lauer, J. (2009). Podcast Power: Hiroshima University's New English Listening Materials. 『広島外国語教育研究』 12, 189-198.
- Williams, B. (2007). *Educator's Podcast Guide*. Eugene, Oregon: International Society for Technology in Education.
- 池田真生子 (2008). 「Podcasting の利用法」竹内理 (編著), 『CALL 授業の展開—その可能性を拓げるために』 (163). 松柏社.
- 上村隆一, 清原文代, 三枝裕美 (2008). 「外国語教育と iPod と Podcasting」吉田晴世, 上村隆一, 野澤和典, 松田憲 (編著), 『ICT を活用した外国語教育』 (pp. 232-255). 東京電機大学出版局.
- 榎田一路 (2008). 「ポッドキャストを英語学習に利用する上での予備調査とその考察—購読型教材配信によるモバイル英語学習システムの構築に向けて—」『広島外国語教育研究』 11, 69-81.
- 清原文代 (2008). 「Podcast による多言語音声教材およびテキスト教材の配信—大阪府立大学の

- 事例を中心に」吉田他（編著），前掲書（pp. 209-231）.
- 鳥居隆司（2006）. 「iPod の教育への活用・実践そして可能性－資格取得を目的とした学習機器としての iPod の活用と実践－」『Computer & Education』20, 12-17.
- 中西正樹，植松茂男（2007）. 「大学生の音声教材再生環境について－2007年アンケート調査から見る現状と展望－」『外国語教育メディア学会（LET）関西支部秋季研究大会 発表要項』, 11.
- 【外国語教育メディア学会（LET）第46回（2006年度）全国研究大会 発表要項集】.
- 【外国語教育メディア学会（LET）第47回（2007年度）全国研究大会 発表論文集】.
- WorldCALL 2008 (Fukuoka, Japan) – CALL Bridges the World (Abstracts).*

ABSTRACT

Developing and Delivering “Hiroshima University’s English Podcast”

Kazumichi ENOKIDA

Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

In this paper, the process of developing and delivering an original English learning podcast, “Hiroshima University’s English Podcast,” is explained, especially focusing on technical details. First, the advantages of podcasts compared with other ways of delivering media are discussed. Not only can teachers let their students learn with podcasts in and outside the classroom without having to copy them into package media, but they can use a variety of podcasting materials for free and without worrying about copyright and license infringement. In addition, the potentials of RSS feeds as “pacemakers” for self-learners should be strongly considered. In short, podcasting can be used in university language education as a supplement to its limited class hours without costs and efforts. The survey conducted in Enokida (2008) showed, however, that despite its high potential as a learning tool, very few students as well as teachers use podcasting for self-learning or course materials.

Considering the status quo mentioned above, I have set the following four goals for our podcasting project: to develop original materials which fit the students’ needs and abilities, to deliver them on line so that they can be available in wired and mobile situations, to encourage students to learn with podcasts, and to try using them in classrooms to see if podcasting helps students improve their English abilities and learning habits. Since this paper concentrates on the first two goals, detailed information is given on how a podcasting program was planned, recorded, edited, and put onto the web server. Materials recorded in an analogue studio were digitized with a digital recorder. GarageBand, produced by Apple for MacOSX, and cross-platform Audacity were useful in editing digital audio files, enhancing the speech volumes and adding background music, jingles, and sound effects. Nucleus, a freeware CMS program, was used to provide podcasting services; it made it easy to generate not only beautiful web pages but also an RSS feed for iTunes. The podcasts are now open to the public and can be found at iTunes Store. The paper concludes that the first two goals are being achieved, and finds that podcasting materials can be created at low costs thanks to the freeware programs.